



注合だより 入善

にゅうぜん



▲落成を祝う今江太鼓の子供たち

3月定例会

- ★一般会計の概要……………2P
- ★一般質問(11議員)……………4P
- ★常任委員会レポート……………16P
- ★視察レポート……………18P
- ★座談会……………19P
- ★前田常作氏名誉町民に推挙
傍聴席からひとこと……………20P





創造教育・地域福祉 環境保全を重点に

平成7年度 一般会計予算

対前年度比2.8%の微増

総額105億9600万円

3月定例会は、3月8日から23日までの16日間の会期で開かれた。今回の定例会は、新年度の基本的な柱となる予算や条例の審議をした。

また、本年度は町民総合計画の前期、最終年度にあたり、21世紀を展望した定例会である。慎重な審議の結果、提案された議案は全て原案のとおり可決した。

〈歳入の概要〉

本年度は、税収や地方交付税の伸びに大きく期待できないことから、財政調整基金から4億7000万円、減債基金から3億円をそれぞれ取り崩した。

町税は、税収の伸び縮みに加えて、恒久減税・特別減税などの影響を勘案し計上している。

町債は、学校の建設や用地取得に伴う義務教育施設整備事業債に13億1660万円、町税の減取による減収補填債に1億6100万円を計上している。

〈歳出の概要〉

歳出については、町民総合計画で策定している4つの施策体系に基づき、その概要を説明する。

(1)「笑顔があふれる健康のまち」

JKKS

○シルバー人材センターの運営に補助 (2480万円)

シルバー人材センターは、開設以来、6年目を迎え、会員数、業績ともに順調に伸び、高齢者の社会参加や生きがいづくりに寄与してきた。今後、その機能の強化

と組織の活性化を図るため法人化する。

○幼児の医療費無料化 (1046万円)

幼児の保健と福祉の向上を図るため、幼児医療費の無料化の特を1歳から3歳未満児までとし、4月から実施する。

○民間ホームヘルプ活動に補助 (8万6000円)

在宅福祉に不可欠なホームヘルプサービス事業では、

ホームヘルパーの増員を図り、多様化する福祉ニーズに民間活力導入を図る見地から民間ホームヘルプ活動補助金制度を創設する。

○デイサービス委託事業 (49920万円)

在宅介護を要する高齢者を舟見寿楽苑まで送迎し、入浴、食事などの提供を行う。

○ショートステイ委託事業 (1235万3000円)

介護している家族の病気や旅行、介護疲れなど介護者を支援するもので、7日間を限度に高齢者を舟見寿楽苑で過ごす。

○在宅介護支援センターの運営を委託 (1099万5000円)

在宅介護に関する相談を24時間体制で受け付ける窓口である。介護用品の展示や斡旋も行う。

4つの施策

- 「笑顔があふれる健康のまち」づくり
- 「香り高い文化のまち」づくり
- 「自然を活かしたうるおいのまち」づくり
- 「未来にはばたく活力あるまち」づくり



▲統合される横山(左)・梶山(右) 小学校

(2)「香り高い文化のまち」づくり

○ 沢杉林の整備事業
(1億8428万 10000円)

本年度は周辺用地の取得、学習施設や野外観察施設の整備をする。

○ 梶山・横山統合小学校の建設事業(建設費7億7525万円、用地取得費3億3900万円)

本年度から2か年間で、より教育効果を高めるために小規模校の統合化を推進する。

○ 入善西中学校の大規模改築(改造費2億円、グラウンド暗渠排水工事400万円)

本年度は、内装、給排水衛生設備、暖房設備、電気設備などの工事を行う。

○ 国際交流を推進
(1341万7000円)

姉妹都市、フォレスト・グループ市との交流が深まり、友好使節団や中高生使節団を派遣する。
また、本年度は哈密市人民政府関係者が来訪される。
○ 「下山芸術の森」の整備

事業

(1億4450万円)

アトリエハウス(芸術の家)を建設し、彫刻・陶芸・絵画など芸術の研修と制作活動の拠点とする。

○ 下山芸術の森「アトリスベイス」開館
(789万7000円)

開館記念展覧会として、篠田守男・水力発電所展や富山省三展のほか、新進気鋭の作家による催しを行う。
※アトリスベイスの愛称は、発電所美術館

(3)「自然を活かしたうるおいのまち」づくり

○ 舟見山自然公園の整備
(2159万円)

舟見城址館を中心とした舟見山自然公園やキャンプ場・野外舞台を有する園地山周辺などは自然との調和のとれたリゾート・レクリエーション地域として整備する。

○ 幹線道路の整備と改良
(2億5418万 10000円)

町の骨格をなす幹線道路の整備は、建設省から選定

を受けた「まちづくり市町村道路整備モデル事業」に

基づき、①上野・吉原線、②舟見リゾート西線、③墓ノ木・小杉線、④平曾川・国道線など路線整備を進め地域の産業・経済の発展と生活基盤の向上を図る。

○ 中央通り線の整備
(2億3000万円)

魅力ある都市空間や市街地の再開発を図るため、中町線から上町・君島線までの370m区間の早期完成を目指す。

(4)「未来にはばたく活力あるまち」づくり

○ 水稲共同育苗施設の建設に補助
(7412万5000円)

本年度は、育苗施設の設置にも助成を行い、安全性、低コストなどによる魅力的な農業を推進する。

○ 中小工商業者への融資預託金
(1億6000万円)

企業の経営基盤の安定や設備投資に必要な資金の融資対策として、低利で有利な条件による国、県の融資預託金など各種融資制度の充実を図る。

○ 種子センターの建設に補助
(1億500万8000円)

水稲種子の調整施設などへの助成により、品質の高レベル準化と町の特産化を図る。

○ 県営土地改良事業
(町負担金1億29950万円・町補助金3150万円)

○ 農村基盤整備事業
(4250万円)

○ 団体営農道整備事業
(4250万円)

○ 県単土地改良整備事業
(7500万円)

農道、農業用排水路、農村集落の環境整備などを整備促進する。

○ 町単道路の改良舗装事業
(1億1000万円)

市街地、集落等を結ぶ生活関連道路の改良、舗装の整備促進を図る。

○ さわやか漁村海岸の整備事業
(2億6880万円)

潜堤や傾斜式護岸の整備により、侵食防止を図り、あわせて人と海がふれあえる親水海岸の実現を目指す。
※潜堤とは、景観に配慮した海面下に位置する離岸堤。

いっぱん質問

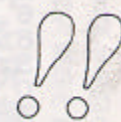


▲活用が期待される「栢山いろり館」

第11回定例会

3月13日(月)・14日(火)の本会議では、11名の議員が登壇し、町長の基本政策や政治姿勢、防災計画、商店街の活性化対策、栢山いろり館の管理運営、保育所の統廃合など……………

町政を問う



発言者と質問要旨

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>五十里隆章議員 (自民党) ……7 P</p> <p>(一)入善町支所設置条例の廃止
(二)自治体業務の一部民間委託</p> | <p>大林政雄議員 (自民党) ……7 P</p> <p>(一)基幹道路の建設促進と産業の活性化対策
(二)ゆとりある教育行政と学校週5日制の条件整備</p> | <p>本多幸男議員 (町民クラブ代表) ……6 P</p> <p>(一)町長の政治姿勢と財政運営の展望
(二)基幹道路の建設促進と産業の活性化対策</p> | <p>広瀬喜代志議員 (自民党代表) ……5 P</p> <p>(一)町長の基本政策
(二)防災計画
(三)福祉環境対策</p> |
| <p>早川誠一議員 (自民党) ……11 P</p> <p>(一)町政の基本姿勢
(二)新幹線対策</p> | <p>東狐 和議員 (無所属) ……10 P</p> <p>(一)男女混合の50音出席簿
(二)女性プランの実施計画とメンバー</p> | <p>田原 進議員 (自民党) ……9 P</p> <p>(一)地方債と健全財政とのかわり
(二)商店街の振興対策</p> | <p>西尾政巳議員 (自民党) ……12 P</p> <p>(一)入善町農業の将来像
(二)湾岸道路に対する町の対応
(三)都市計画線の見直し</p> |
| <p>岡島 功議員 (自民党) ……15 P</p> <p>(一)保育所改築の予定
(二)出し平タムの諸問題</p> | <p>福沢憲一議員 (自民党) ……14 P</p> <p>(一)下山芸術の森「レストラン」の運営
(二)栢山いろり館の管理運営</p> | <p>九里郁子議員 (日本共産党) ……13 P</p> <p>(一)地震、津波防災
(二)ゴミ問題
(三)出し平タム排砂による影響調査</p> | |

新川拠点都市の指定 どう活かすか…

町長 特徴を活かした 町づくりをする



広瀬喜代志議員
(自民党代表)



▲復興が待たれる神戸市内

広瀬喜代志議員 新年度予算編成の基本的な考え方を聞きたい。

柚木町長 厳しい財政状況の中、徹底した洗い直しをした。町民総合計画は前期の最終年度を迎え、21世紀を展望した着実な諸施策を町民の立場にたって実行していきたい。

特に高齢化、少子化対策、学校建設と教育環境の整備、ゴミ、下水道の受け皿づくりなどを重点に積極的に取り組んできた。

町政の主人公は町民であり、その声を聞き、情報化、国際化に対応した先見性を備えた行政運営を推進したい。

広瀬議員 高度情報化システムを福祉医療、災害救急救命等に導入する考えはないか。

町長 ご指摘のとおり、高度情報化を前提とした、住民の福祉向上に知恵を絞らねばならない。

新川広域圏でテレトピア構想の研究会が発足し、あらゆる研究を進めている。行政サービス情報システム、住民票等自動発行システム、福祉医療情報システム、災害や緊急情報システムなどを考えられ、町と病院、保健機関と個人を結ぶものも考

えていきたい。

広瀬議員 国際化時代に対応した施策をどのように実行するか。

町長 オレゴン州フォレストグローブ市との交流や中国の蛤密市との特産品を通じての交流を段階的に考え、さらに、隣国やアジア諸国との友好的関係を図るため、調査研究をすすめたい。

た個性的な発展を図りたい。

広瀬議員 黒部川を中心とした、大同合併を考えてはどうか。

町長 広域合併は真に町民のためになるか疑問である。住民の幸せが基本であり、合併よりも、広域的事業は協力し、個性的行政を推進すべきと考えている。

広瀬議員 町の防災計画は万全か。

町長 検討委員会で見直しを急いでいる。1月17日を防災訓練の日としたい。

地方債と財政運営は健全か……

町長

赤字団体には、ならない。

本多幸男議員 柚木町長はかねがね、「町長は権力の座ではなく権威の座である」と述べてきた。

町民の中に「町長職も長く続くと、自信過剰になったり、文化事業に片寄り過ぎるのではないか」との一部の声がある。

町内外の評価は高いと確信しているが、改めて町長の政治姿勢を伺いたい。

柚木町長 町長に就任以来、

4期目の折返しし点を迎えようとしているが、「町政の主人公は町民である」という基本姿勢はいささかも変っていない。

常に初心を忘れず、今日まで学校教育の整備、町民スポーツの環境づくり、福祉の充実などに努め、さらに、物の豊かさから心の豊かさを求め、文化の高揚を目指した事業にも取り組んでいる。

本多議員 地方債の動向は今後どのように推移していくか。

義務的経費が増大し、投資的経費が圧迫される心配はないか。

町長 公債残高は現在も、今後の見通しにおいても、県内の水準や全国平均から見ても、決して多い方ではない。

県政、町政報告会で「入善町は文化事業に力を入れ過ぎるため、下水道事業に廻す金がなくなる。このままいくと近い内に財政再建整備団体になる恐れがある」という議員がおられると仄聞するが、そのような事には絶対ならない。

本多議員 基幹道路網整備の進捗状況をお聞きしたい。

町長 国道8号バイパス関連事業は新黒部大橋の起工

式までこぎつけ、用地買収も地権者のご協力で順調に進んでいる。

本多議員 土地改良区の合併問題と職員に余剰が出た場合、町当局が相談に応ずる用意があるか。

町長 一部を残して、来年四月に大同合併の方針と聞いている。

その時、職員の解雇はやるべきでないと考えており、町としても真剣に相談に応じる。

本多議員 学校隔週5日制の受け皿整備についてどう考えているか。

窪野教育長 教育委員会としても重く受け止めており、議会から提出された学習指導要領の見直しを求める意見書も含めて環境づくりを早急に確立したい。



▲用地買収が進む国道8号バイパス（上飯野地内）



本多幸男議員
(町民クラブ代表)

舟見支所を廃止する理由は…

町長 支所を連絡所として残す



大林政雄議員
(自民党)

大林政雄議員 舟見支所廃止の件が、本議会に上程されたのは、余りにも唐突であり非民主的と言わざるを得ない。理由は何か。

袖木町長 昨年6月、自治省より機構改革町費削減の指導があり、当町としてもスクラップ・アンド・ビルドの原則に沿い、課の統廃合、町費削減等を考慮し、昨年11月舟見、野中両地区において説明会を開催し、本日提案した次第である。

支所設置当時比べ、道路、通信、交通手段等格段の進歩を見る今日、支所利用件数は漸減し、1日あたり8件程度であり、これらを考慮の上、提案した。

大林議員 道路、通信の利便性、マイカーの増大は、単に通勤者に便宜を与えすぎず、高齢者にとっては歩行距離は従来と変わらず、また、年間2000人を超す高齢者が支所の恩恵に浴している現実を認識していただきたい。

町長 議員としての心情こもる質問内容には、敬意を表したい。

仮りに、支所が廃止されて連絡所となっても、出生届、死亡届、婚姻届の3件が本所扱いになるのみで、従来通りの機能を有するものである。

大林議員 役場機構の中で、

舟見支所以外にも、合理化の対象となるべきものがあると考えられる。

総務委員会で審議の上、結論が出ると思うが、地区民に対し、当局の意向伝達と、主旨徹底のための時間をいただきたい。

町長 支所が連絡所と名が変わるだけで、出生、死亡、婚姻届以外は、従来通りであり、理解いただきたい。

000万円、一般会計の約6・8%を占めているが、自治労の発表によれば、必ずしも効率化につながっていないと言われている。

これはどういう訳か。発注の手段、方法等に検討すべき点はないのか。

町長 民間委託は、効率をモットーとすることは、御意見のとおり、町としては、常に厳正、ガラス張りを心がけ、職員には厳重に指示している。

特別及び高度な知識を必要とするものは県の諸経費表に基づき、3〜4名の業者を選定して入札。

し尿、ゴミ収集等は、県よりの一覧表に基づき詳細に念査の上、委託している。



▲親しまれている舟見支所

大林議員 高度な知識を必要とする業務は第三者によるチェック体制を採るべきでないか。また、一般業務の場合、毎年、同一業者という点に問題はないのか。

町長 県の基準に基づき、公正に対処している。

し尿、ゴミに関しては、人員確保等を考慮し、混乱を避けるよう留意し、他市町との比較検討も怠らず、周辺市町より低廉と自負している。

商店街の振興策は……

町長

商工会と密接な連携を図る



▲振興策が待たれる商店街



田原 進議員
(自民党)

田原進議員 平成7年度地方債の予算計上は13億1660万円が積算、歳入に占める割合は12・4%である。

○本町の財政規模に対し、どの程度の起債が許されるか。
○健全財政を堅持する面から無理とならない起債額ほどの程度か。

○毎年起債に依存している
と、税収入の大半が公債費となり事業ができなくなる財政状況を生じないか。

○本町の予算規模でどれだけの地方債額が妥当かと言いますが、額については、当該年度に行う事業の種類、規模により、適正規模の指標はありませ

ん。
国の定める地方債依存度は、町の歳入に占める割合より1・3ポイント高い13・7%である。

町の自主財源で償還する負担率を指す起債許可制限比率では、15%を超えると黄色信号のラインと言われている。
本町においては、今後、10年間に13%を超えることがないものと確信している。

田原議員 町活性化に対する商店街の振興対策について。
○中心商店街の活力の欠如を、町長はどの様に受けとめ、行政指導をするのか。
町長 町の顔である商店街に、人通りが少なく、活気がなくなっていることを大

変、憂慮する訳である。
本年10月に、ショッピングタウンがオープンすることにより、入善町の商業環境は、三極化し、大きく変貌することになる。

この様な状況下で、経営者は、自分の店は自分の手で、と言う自助努力が必要と思う。

例えば、閉店時間を30分でも1時間でも遅らせるとか、また、シャツターが降りていても、中の商品が見えるシースルー式のウインドーにして、お客を惹きつけるとか、他店と同じような品揃えではなく、小さくてもキラリと光る特徴を出すとか、それぞれが相乗効果を生み出し、健全な商業活動が推進されるよう、町商工会とも密接な連携を図ってまいりたいと考えている。

JR横断上野・吉原線の 重要認識が乏しいのでは？

町長 立体交差が大きなネック



五十里隆章議員
(自民党)

五十里隆章議員 三月補正予算では、ウルグアイラウンド対策に関する増額補正、総額2億3091万円、中央通り線をはじめ、農業関連とは理解し難い内容と思うが、町当局は、どのような気持ちで予算化した。

〈答弁なし〉

五十里議員 新食糧法が適用になり、農政は大転換期にはいった。

町の農業の現状は後継者不足、高齢化が重要課題となっている。

昨年10月「農業経営基盤に関する基本的な構想」を

まとめられたが、町の7年度予算には、そのような観点からの予算づけが見受けられないのではないかと。 柿木町長 現況の農業経営態形がよいとの意見がある。 無人ヘリコプターの導入等積極的に取り組んでいる。

五十里議員 昭和27年、君高・板屋線が都市計画決定

されてから、すでに、半世紀経過しようとしている。 また、昭和36年に決定された上野・吉原線は市街地を取り巻く環状線として期待され、JR横断道路としての重要性も増しているが、遅々として進んでいない。

重要路線としての認識がないのではないかと。 町長 重要度、優先度を見極めながら取り組んでいる。 上野・吉原線は一部地権者と交渉中だが、関係者の全面的協力が前提条件であり、約5億円を必要とするJRの立体交差が大きなネックになっている。

都市計画は地域の発展には極めて大切であり、地権者の理解を求めながら、積極的に取り組んでいきたい。

五十里議員 海はそれだけで心を和ませてくれる。すばらしい要素を持っている。 道路を作ることによって、自然環境が大きく破壊されないよう動植物の生態にも配慮した道路整備をすすめたい。

湾岸道路の路線決定にあたっては、さわやか漁村海岸、圓家山、沢スギ、じょうべのまを有機的に結び、緩傾斜堤の並んだ海岸線を守る夢のある道路づくりに期待している。

町長 海岸に接した道路は、片面しか発展しないというマイナスの要素があるので現在の町道、農道を活用していくのが効率的でないかと思う。



▲中央通り線の施設公衆トイレ

ふれあいプラザと街の活性化は…

町長

中央公民館跡地に

公共施設を検討中



▲授業風景(入善小)



東狐 和議員
(無所属)

東狐和議員 男女平等を教育現場から考えるとき、男女混合の50音順出席簿について教育長の考え方を問う。窪野教育長 入善小学校では、既に男女混合名簿を実施しており、時代のすう勢で望ましいこと。

男女の固定的役割分担を見直して、女性はもつと社

会参加をし、男性はもっと家庭参加をして豊かな男女共同社会を作りあげ、イコール、パートナーとして認め合うことが求められている今日、混合名簿は各学校と相談して前向きに検討していきたい。

東狐議員 (1) 待望の女性プラン策定委員会が発足したが、その構成メンバーと実施計画を問う。

(2) 策定のための庁内連絡会議はどのように機能するのか。

(3) 女性プランの基本的な考え方を聞きたい。

平崎企画財政課長 (1) 各界各層を代表して女性8名、男性は6名、計14名で構成。実施計画は平成7年度中の5月から3月まで10回。分

科会で協議を行い、平成8年3月より実施する。
(2) 助役を会長とし、各課長で組織し、女性に関する施策について連絡調整等を行う。
(3) 21世紀に向けた男女共同社会をつくるためである。

東狐議員 町民ふれあいプラザと中心街の活性化はどのようななかかわりあいがあるか。

袖木町長 商店街の中心にぎわいをもつために、公共施設を中央公民館の跡地に検討中。JAマーケットも老朽化しているの同時期に考えている。

若者の望むものを念頭に置きながら都市型ホテルの誘致などを検討している。

新幹線は、地元にとって迷惑… 対策を聞きたい

町長 住民の立場にたって 交渉にあたる



早川誠一議員
(自民党)

早川誠一議員 地方拠点都市の指定が近日中に決定されると聞く。
西高東低と言われる県東部の発展が期待される。
広域性のある施設、事業等のように計画されるが、
柚木町長 新川地方拠点都市地域指定推進協議会では、
これまで、学識者や若い世代の方々から意見を拝聴しながら、21世紀を展望した新川地域のビジョンを求めた。

早川議員 大規模農家ばかりでは、今の社会構造が破壊される。
2、3の大農を育てるより、現在の兼業農家を守ることが大切、年金農業者こそ、低コスト農業になると考えるが、町長の考えを聞きたい。
町長 農業は基幹産業である。農家収入のうち、農業収入は10%である。
農業は単に米を生産するだけでなく、水田はみどり

のダム、自然環境の保持等大きな役割を果たしている。また、精神的安らぎも与えてくれている。
町として、平成7年度は種子センター、育苗センターの設置事業に積極的に取り組んでいる。国内対策費が具体化した時点で補正対応したい。

早川議員 新幹線は新屋、小摺戸両地区では、対策協議会を結成し、取り組んでいる。
我々にとっては、百害あって一利なしと言える迷惑施設であり、現在の恵まれた自然、住みよい生活環境を維持することが重要である。町の対応はどうか。
町長 本年2月に小摺戸地区、3月現在、新屋地区の中心測量が行われた。
今後の交渉のポイントを明確にできること等の理由により、地域のみなさんの理解のもとに実施されている。今後は、公団によって構造物の設計、地元との協議を経て、用地交渉に入るものと思う。完成までには、今後、10年以上が予想される。地権者をはじめ、地域住民、関係機関のみなさんの立場にたって、それぞれの段階での協議、交渉にあたっていく。



▲新幹線を中心測量（新屋地内）

新食糧法は農民に打撃を与えなにか……



▲省力化が進む育苗センター（小摺戸地内）



西尾政巳議員
（自民党）

助役

大変心配している

西尾政巳議員 新食糧法は、生産者の自主性を生かして、稲作生産の体質強化を図り、規制緩和により、流通の合理化を図るとなっているが、入善町農業にとって、吉か凶か、農民はリストラされなにか。

西尾議員 すでに秋田県では、コメの価格が20%下ののなら、単位面積当り収量が従来より20%前後多い銘柄の増産を考えているが町ではどうか。

西尾議員 今後は地場産品を全面的に学校給食や、町の行事で指定して料理する運動を起せないか。

助役 初耳であり、町では県へ申し込む。県の農業試験場は県立であり、秋田県の農業試験場は国立である。

西尾議員 町は地場産品と今、秋田県の農業試験場は国立である。今のところ、「ハナエチセン」で対応したい。

西尾議員 町の基幹産業と

今後、増大していきたい。

海岸線に防災行政無線増設を

総務課長 増設を検討したい



九里郁子議員
(日本共産党)

九里郁子議員 阪神大震災を教訓に、「入善町地域防災計画」は根本的に見直す必要がある。震度7以上を想定し、国、県、JRなどに対震度調査とその補強対策を申し入れること。公共施設を建築基準法の改正段階の分類を開始する。さく井業者の協力を得て、町内の地質調査を積み上げる。避難場所の表示や経路標識の設置。消防職員の充足率は48%であり、体制強化が必要。防災行政無線増設の考えはあるか。柚木町長 地域防災計画は見直しが必要。技術研修のため「耐震診断基準改修設計指針講習会」に建築技師を派遣する。研修しながら対応したい。

上島総務課長 避難場所の安全性や表示、経路標識も今後検討する。屋外拡声子局の増設や家庭用受信機についても検討したい。九里議員 新川広域圏議会です算審議前に、指定袋製造業者の入札実施は自治法違反である。見積り、入札、再入札をやり「決まっている」と言っていた業者に落ち着いたことは不自然。町長 仮契約をしておき、予算が通った段階で正式契約はやむを得ない。平崎企画財政課長 広域圏議会の決定を待ってからは、4月1日実施に間に合

わない。違法性などいろいろ問題はあったがやむを得ない措置と思っっている。九里議員 時間がなければ何をしてもいいの。廃棄物の処理に関する新条例で、減量は期待できるのか。企業責任を波及しないのはなぜか。分別収集した資源ごみの再生資源利用の展望を具体的に示せ。富山環境財団事務局に職員を出向している県内大手6企業の再生資源利用率はどれほどか。町長 富山環境財団が有効に機能を果たすよう申し入れ

たい。三賀環境保健課長 缶は新日鉄で、ピンは滋賀県の東洋カレットでリサイクルする。北陸電力は紙のリサイクルや再生品の利用。三協アルミは7分別の資源回収と聞いている。九里議員 潜水調査船「しんかい2000」などによる出し平ぐみ排砂のヘドロ堆積調査について、国は「県から要望があれば積極的に対応したい」とのことだが、県に強く要求する考えはあるか。町長 3月末の検討委員会に要請したい。



▲増設を望む防災行政無線の屋外施設

下山芸術の森 レストラン運営の見通しはどうか

町長

フランス料理などの専門店で



▲入居が待たれるレストラン



福沢憲一議員
(自民党)

福沢憲一議員 2月の広報入善には、レストラン入居者募集と掲載しており、テナント料は1万円、締め切りは3月15日となっているが、次の2点について問う。(1)2業者以上の申し込みがあった時はどう選定するのか。申し込みがなかった時は直営でやるのか。

(2)テナント料を1万円とした根拠はあるのか。歳入にテナント料収入が見込んでない。また、レストラン棟は行政財産か、普通財産か。財産区分によって契約内容は違う。

柚木町長 おいしい食べ物があれば人が集まる。

完成した後は、作家の人達が集まることや子供達の学習の中で、そこでおいしい食事をする事で再度来ることも充分考えられる。松島生涯学習課長 正式にはないが、現在まで問い合わせが、4件来ている。

4月15日から6月18日までのオープニング展の期間中にも入居者を決める努力をしたい。使用料ではないので収入の面で不安があり、難入で受ける考えで予算計上はしていない。

行政財産で使用許可となり、一方的に契約解除ができる。

福沢議員 柗山いろり館に9631万円強の予算を6年度で計上していたが、基本的に変更があったのではないか。

神子沢のセミナーハウスとの関係はどう理解をもとめるのか。

町長 目的は当初と変わっていない。外国からのお客さんの接待等にも使用したい。神子沢にあるセミナーハウスは、現在、職員研修等に使用しているが、契約がもうすぐ切れる。期限が来たら返すことになっているので問題はない。松島課長 宿泊もできるので食品衛生上管理には充分気をつけるから心配はない。

出し平ダム排砂の行方は？

町長 検討委員会の最終報告を見守る



岡島 功議員
(自民党)

岡島功議員 保育所の統廃合と、それに伴う増改築についての計画はあるか。
少子化時代を迎えている今日、延長保育、一時保育などをどのように考えているか。
柚木町長 保育所は地域の子育てセンターでもあり、現時点では、統廃合は考えていない。10名を割るようになれば検討する必要がある。
芦崎保育所は26年経過しており改築を検討したい。夕方の居残り保育は5カ所で実施したい。
民間保育所に補助する。

岡島議員 出し平ダム排砂

影響検討委員会が3月末までに結論を出すとの事だが、これまでの具体的内容と今後の予定を聞きたい。
自然環境保全が叫ばれている今日、海岸、河川、水への影響など対策はどうか。
建設中の宇奈月ダムについて、県議会で建設費の増額が論議されたようだが、町への影響はどうか。

町長は当初、出し平ダム排砂に反対だったが賛成の方向と聞くが、はっきりした立場を聞きたい。

去る、2月27日に9回目の検討委員会が開催され今後の排砂のあり方は、流域への影響を極力、軽減することを基本として、排砂ゲートを用いた排砂を基本とすることも止むを得ないと結論づけている。
富山湾の海面漁業や内水面漁業及び農業等の黒部川流域の産業や環境の保全に充分、配慮すべきであり、排砂に伴う問題が生じた時は誠意をもって対応するものとしている。



▲地域の子育てセンター（吉原保育所）

常任委員会レポート

3月15・16・17日の3日間、それぞれ総務・文教厚生・産業建設の各常任委員会が開催され、付託された議案を審議した。

各委員から審議の過程で出された意見の要旨を報告する。

総務

OA導入の 効果を期待

OA導入推進費4235万7000円は、今までも論議されてきたように民間企業の厳しい人件費抑制を考慮する時、地方自治体の行政事務は民間と異なるとは言え、基本となる合理化の姿勢は見習う必要がある。

従って、近年の事務量増大への対応、作業能率の向上、住民サービスの拡大向上に従前以上の努力を傾注された。

業務委託に

安易さはないか

業務委託費約7億500

0万円のうち、準公的機関へ1億3000万円、差し引き5億円余りについて、随意契約などに、十分な精査がされていると考えるが、

入札、競争の原理が働いているか、チェック機能が働いているか懸念される。

電算が導入されて久しいが、前での対応はなぜできないのか。

また、測量、設計委託など、外注の傾向にあるが、事務量の集中緩和も理解でき、安易に委託へ流れないよう配慮を望む。

女性係と町民を どう結ぶか

女性プラン策定費218万円は、実際にどのような施策を具体化しようとする

のか、策定委員会も女性係も町民に見えていない。

広域消防の 基礎づくり

新年度は、広域消防の観点にたつて隣接朝日町の職員2名の交流に期待する。職員の理解を深め、救急救助研修等、当面の課題と併せ、前向きな姿勢を望む。

舟見支所の廃止は 地区民の理解を得て

36年間、地区民に愛された舟見支所を連絡所にする案件は住民感情を想う時、適切な説明が不足している。6月議会までの閉会中の継続審査としたい。

(報告者・本多幸男委員長)

文教・厚生

宝の持ち腐れに ならないように

1億2000万円投資の「棚山いろり館」は、カヤぶき屋根の典型的な農家を復元して後世に残すとともに、小中学生の体験学習や町民の生涯学習の場として、大いに活用されることを期待したい。

町内外にPRし、利用者や投資効果の増大に努めていただきたい。

庁舎正面を 自動ドア化

身体に障害のある人やおとしよりに対応した「住みよい福祉のまちづくり事業」は、3年計画の最終年度に当り、車イス7台購入、福祉文庫の設置、庁舎正面の自動ドア化などが主なものである。

公共施設の改善は十分検討し、真に実効あるものとなるよう期待する。

老人の自立を 支援する施設

高齢者の在宅サービス充

実と在宅医療の促進に向け事業の充実を要望する。

小杉地内に開所の「こぶしの庭」は、老人の自立を支援し、家庭復帰を目指す民間施設であり、町は利用者への立場に立って、積極的に支援すべきである。

シルバー人材センター を法人化し充実

高齢者いきがい対策の一環として、今後、益々活用されるよう町民にもっとPRが必要である。

保母の配置基準 見直しを国に 強く要請必要

土曜日保育の苦情がある。積極的な対応を求める。

とやま環境財団は リーダーシップを

廃棄物の減量化、リサイクルに指導性を発揮するよう強く要請されたい。

3歳未満児医療費無料化を高く評価する。
1歳引き上げは評価するが、窓口無料化を要望する。
(報告者・田原進委員長)



▲炭火も暖かい「棚山いろり館」

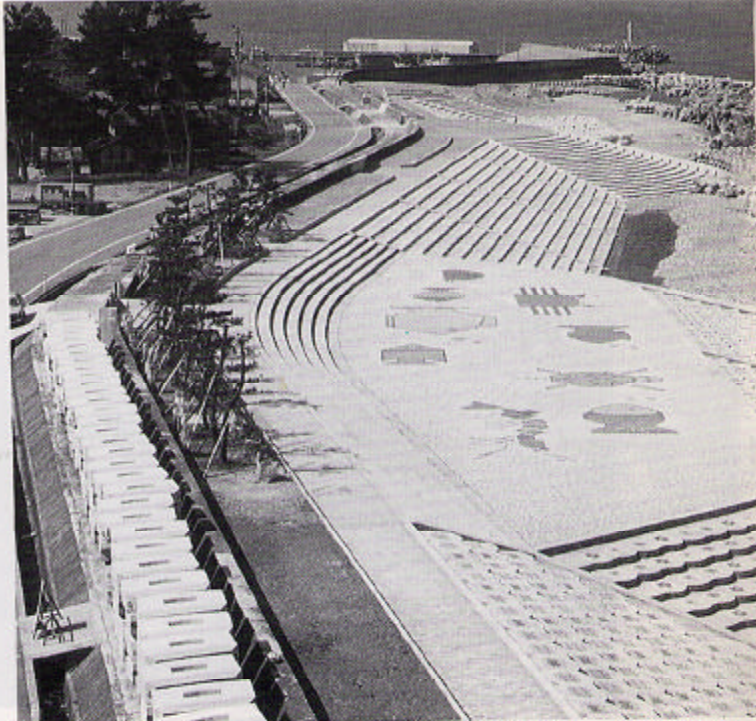
意見書

今定例会で提出された意見書は原案どおり可決し、関係機関へ送付した。

「地方分権推進法」の 早期成立を求める

住民に身近な行政は、住民に身近な地方公共団体において処理することが肝要である。

地方自治体が望む真の地方分権とは、機関委任事務制度など国の官僚統制を廃止し、住民に密着した仕事は地方に権限を移すこと、財源の面においても自治体の自主性・創意性が発揮できるように財源を保障すること、住民奉仕の効率的な行政をすすめることである。



▲憩いの場となる「さわやか漁村海岸」(芦崎地内)

下山用水組合議会の 新議員決まる(任期4年)

下山用水組合管理者の朝日町長から任期満了による組合議会議員の選挙要求があり、入善町選出議員として、つぎの6名が当選された。

- ・ 墓ノ木 腰本 一郎(墓ノ木355)
- ・ 下山 坪野 利則(下山1118-2)
- ・ 下山 鍋島 賢治(下山733)
- ・ 日吉 西島 一夫(小杉787)
- ・ 藤原 吉原 裕計(藤原193)
- ・ 古黒部 山崎 伸一(古黒部86-1)

舟見中学校組合議会 議員決まる

入善町7名、朝日町3名(任期4年)

舟見中学校組合管理者の入善町長から任期満了による組合議会議員の選挙要求があり、入善町選出議員として、つぎの7名が当選された。

- ・ 大林 政雄(舟見1068-1)
- ・ 山本 修治(舟見1531)
- ・ 小森 正雄(舟見244)
- ・ 芹沢 稔人(舟見371)
- ・ 水野日登志(中沢28)
- ・ 大割 輝明(野中503)
- ・ 坂東 久男(西中180)

産業建設

稲作農業への
助成は担い手
育成と併せて

種子センターの増築、飯野地区育苗施設建設などへの多額の補助は、稲作を基幹産業とする町として重要であるが、効果があがるよう指導されたい。
無人ヘリコプターは水田の限定やオペレーター養成、年令制限など困難もあり、

今後の導入は一考を要する。担い手を育成するだけでなく、悩み等に耳を傾け効果があがるよう指導性を發揮されたい。

海水浴もできる

護岸整備を期待

寄り回り波や冬期風浪等による災害や侵食に備え、潜堤や傾斜式護岸を整備してきたが、景観、安らぎ、憩いの場として人々に喜ば

活気ある

商店街づくりを

大型ショッピングタウン建設は商工業界が主導で決めた事であるが、町としても商店街の要望に積極的に応え、融資預託金や経営相談に鋭意、力を注がれたい。

下水道課の 新設を評価

新設を評価

財政厳しい状況下で1億円の基金積立を評価するとともに、従前の係を課に昇格し、本格的に取り組む姿勢は町民の関心も高く、早期に着工することを望む。
(報告者・早川誠一委員長)

また、商工業振興事業の一環として、永年実施してきた「町民ふれあい号」の運行は今年から斬新な企画で実施は大いに期待したい。

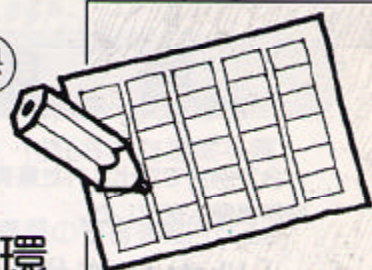
行政視察

レポート

環境保全と芸術文化の振興

長泉町と清水町柿田川を視察

静岡県



議会運営委員一行9名は2月9・10日、静岡県長泉町議会と清水町の柿田川を視察した。

柿田川は毎分100リットの湧水が大河を成し、町内は

もとより、熱海市の飲料水となつている。環境庁の名水百選に認定され、自然の樹木、草、竹を保全、三方コンクリートや人工構造物を一切排除した、まさに水

公園である。清水町は、糸例で地下水の汲み揚げと自然林の伐採を規制している。規模は異なるが入善町の清水川(庄助川)も柿田川の環境保全を参考にすべきである。

長泉町もすばらしい町である。三島駅に近く、東京へ約一時間、人口34000人、繊維、製紙、外資系企業など進出し、自主財源90%の交付税不交付団体である。一昨年、当選した町長は、「町民参加、開かれた町政」を公約し、住民との対話行政を進めている。町の将来像を「水と緑と文化のまちづくり」と定め、下水道は文化行政の一環として強力に推進している。

「町民コミュニティ広場」を拠点に芸術文化のレベルが上がっており、首都圏から画家、彫刻家、作家が転入してきている。国際交流にも力を入れ、四年前、ニュージールランドの都市と提携した。子供達や一般町民がホームステイばかりだと不安もあり、現地で10000m²の家を1500万円で購入した。向うに日本人が多くおり駆け込み寺的に使ってもらい、日本大使館から感謝されている。年間管理費は、管理人賃金を含めて年450万円である。

町が会員400名でスタートさせた国際交流協会に管理を委託しているとのこと、今後の町づくりの参考になりたい。

報告者 議会運営委員会
副委員長 本多幸男

議会だよりを編集する私たちは、1月31日、2月1日の両日に向け、石川県内灘町を訪れ広報編集委員のみなさんと懇談研修した。「内灘町議会だより」は、町村議会広報全国コンクールで過去4回も優秀、奨励賞などを受賞している。編集方針は、住民と議会との意志の疎通を図り、相互の信頼を培うためのものという考えから、まず、読んでもらえる広報づくりを念頭に作り組んでいる。特色として、

(1) 議会だよりが住民に対して一方通行にならないように「モニター制度」を採用し編集の参考にしていく。

(2) 住民からの投稿は、「内の声・灘の声」欄に載せて紹介している。

報告者
議会広報編集特別委員会
委員長 板川清治



▲熱心に意見交換

読んでもらえる

議会だよりについて...

石川県

先駆的な 内灘町を研修

(3) 「ありやどうなったがいね」欄では、議会での議員の質問や提案に対し、町当局が検討を約束した事柄が、その後、どのように処理されたか追跡調査し載せる。

(4) 「議会だよりによせて」欄では、住民に依頼して原稿を書いてもらうなど独自のものがある。

この視察研修の成果を機に、さらに読者に読んでほしい・読んでもらいたい・読んでほしい・さらに、次号にも期待してもらいたい。この3つの願いをこめて、今後の広報編集に大いに役立てたい。



▲柿田川の水源地



新 正・副議長 常任委員長 語る

〈出席者〉

- ・田原 進議員 (文教厚生常任委員長)
- ・板川清治議員 (副議長)
- ・野坂俊一議員 (議長)
- ・本多幸男議員 (総務常任委員長)
- ・早川誠一議員 (産業建設常任委員長)
- 〈司会〉 九里郁子議員 (議会広報編集副委員長)

2月28日(火)、私約
交替により議長、副
議長、総務、文教厚
生、産業建設の3常
任委員長が誕生した。

司会 みなさん、ご苦労様です。
早速ですが、議長より順次、就任の抱負を述べて下さい。
また、委員会を公開すべきか、どうか等についての考えも聞かせて頂きたいと思えます。

就任の抱負

野坂俊一議長 党や派閥にとらわれず、町民本位の町政が進められるよう努力したい。

議会と執行部は融和団結していききたい。

板川清治副議長 議長の補佐役として議長を支え、スムーズで民主的な議会運営に努力したい。少数意見にも耳を傾ける。

町当局に対し、キチッと意見を述べる立場を崩さないよう全力で当りたい。

本多幸男総務常任委員長 主権者である町民が今、町政と議会に何を求めているか、先見性をもって進みたい。
安易に妥協することなく、是々非々の姿勢で取り組む。

田原進文教厚生常任委員長 高齢化社会に向け、健康と長寿のまちづくりを推進したい。

特に、健康と医療を重点に取り組みたい。

早川誠一産業建設常任委員長 農村、市街地を問わず、町民生活を守り、日々の問題をとらえ、町民の要望をつかんでいきたい。
請願、陳情、町政懇談会などで要望され未解決のものも多く、検討したい。委員に町長の出席を求めらる。

委員会の公開について

本多委員長 基本的には公開すべきである。各委員会統一したものを決めたらどうか。

田原委員長 すべて公開ではなく、時と場合による。

早川委員長 すべて公開とは思わないが、公開は議員に不利との考え方はおかしい。

野坂議長 議案審議は公開すべき時期と思う。
懲罰などの問題は、当然、非公開で。

板川副議長 議会運営委員会等で検討し、各委員会に示したらどうか。

司会 一般質問に関し、質

問項目数と時間の両方を制限することに問題はないか。

本多委員長 円満、民主的な運営には、持ち時間制が必要である。
当局の答弁が長すぎる。

早川委員長 時間制限は特に異論はないが、3項目以上の質問もあり、答弁もれが多い。

田原委員長 40分間の制限に異論はない。質問項目が重ならないよう、議会運営委員会で調整できないか。

野坂議長 質問時間は15分、答弁時間は25分がいいのではないか。
質問と答弁がかみ合わないことが多い。

板川副議長 時間制限の中では、質問項目数の制限をはずしてもよいのではないか。

司会 お忙がしいところ、ご協力ありがとうございます。

傍聴席からひとこと



竹内静子さん
(入善15区)

私が、町議会傍聴の機会を得たのは、ときわ教室(入善地区公民館講座)に入級してからです。

今年も、教室の皆さんと3月議会を傍聴させていただきました。今回は3人の議員さんの質問を拝聴することができました。

新幹線対策、新食糧法への対応、地震・津波防災、ゴミ問題等いずれも私たちの関心深い、生活に密着した問題でした。わけても、ゴミ処理問題については、4月1日実施を間近にひかえ、切実な問題として、それぞれの思いをこめて聴かせていただきました。

毎年1回、町議会の傍聴をするようになり、おかげさまで町政にも、よりいっそう目を向けるようになり「議会だより」も気をつけて読むようになりました。

政治の問題が直接私たちの日常生活にひびいてくることを痛切に感じる、今日この頃でございます。

前田常作氏

入善町名誉町民に推挙

3月議会、最終日の3月23日に前田氏を全員一致で、名誉町民に推挙した。



〈前田氏の略歴〉

- 出生地 鶴山村鶴山新72
- 生年月日 大正15年7月14日生
- 現住所 東京都国立市中3-16-4
- ・ 昭和19年3月 富山師範学校修了
- ・ 昭和28年3月 武蔵野美術学校西洋画科卒業
- ・ 昭和32年(31歳) 第1回国際青年美術家展で大賞受賞、その後バリ留学
- ・ 昭和52年(50歳) 中国訪問後、親想マンガラ図、シリーズの制作を開始、現在マンガラ画家として、活躍中
- ・ 平成6年12月(68歳) 武蔵野美術大学長に就任

「頑張り屋だった前田さん」

石田利明 (元上青小学校長)

私と前田さんとは同年です。肩から画箱を掛けて富山へ通学されていた頃からの知り合いです。

終戦直後、画材の乏しい時によく頑張るな一と思っていました。

卒業後、田上青中学校で一年間、美術教師をされ、更に美術の追究のため上京されました。

展覧会を見に上京した折、

前田さんを訪問しました。

その頃はまだ、東京の長鳴さん宅敷地内にある一部署の小屋で、キャンバスや自

飲用具が所狭しと置かれていた姿を思い出します。

あれから数年後、国際青年美術家大賞を受賞され、一躍、前田先生の名が美術界に知れ渡りました。

「懐かしい情熱的な授業」

上原 毅 (前入善小学校長)

今から50年程前のことである。昭和22年4月に新制

中学校が創設された。校舎もなく、上

原小学校に間借りしていた上青中学校に、前田先生は

新卒として赴任された。黒板の前を行き

な授業が懐かしい。ひとつのものを徹底的にスケッチさせ、対象物をよく見ることを教えられた。先生の作品を通して、油絵を初めて知った。その年の秋、突然、先生が転任されると聞き驚いた。離任式で奥田新作校長が「前田画伯として大成されることを期待してお送りしましょう」と話され、お別れしたのがつい先日のような気がする。

編集の窓

◆阪神大震災の惨禍もさめやらぬ内に、サリンによる無差別殺りく事件が発生し、全世界の驚愕の的となった。自然も人間も何かおかしくなっている。

◆自分達の住んでいる所が災害に遭わねばとか、自分さえ良ければ、という考えから一歩脱却して、「自分今、何ができるか」共同社会の構成員たる自覚と発言が求められる。

◆我が町も先般、防災会議を開き、富山県もいつ地震があっても不思議でない、との講演を聞いた。

真剣に防災計画の見直しに取りくみたい。

◆急速な円高と株価の低迷が続き、日本経済の回復に明るさが見られない。長期安定政権と強力なリーダーシップを望みたい。

◆統一地方選挙で各々、審判が下された。既成政党の枠組みか、無党派層かで注目された東京、大阪の知事選挙はこれまでの常識が塗り替えられた。

政治にたずさわる者、「主権在民」を忘れてはならない。